

# 第12回 地域サロン・宅老所・グループホーム 全国研究交流フォーラムinしが



アメニティー・ネットワーク・フォーラム 共同開催！

2009年2月21日(土) 大津市民会館 (滋賀県大津市)  
2月22日(日) 大津プリンスホテル

主催:「第12回地域サロン・宅老所・グループホーム全国研究交流フォーラムinしが」実行委員会  
宅老所・グループホーム全国ネットワーク  
街かどケア滋賀ネット

古来からここ近江の地は、国の交通の要衝として存在してきました。また戦さや商売のために、多くの人たちが行き来し、多様で柔軟な近江の文化をつくり上げました。

それに滋賀は琵琶湖を抜きには語れません。その琵琶湖は、滋賀はもとより、京都、大阪の水源として多くの人の命と暮らしを守ってきました。

私たち「街かどケア滋賀ネット」の活動も、そんな歴史や風土を土壌としています。分野や領域にまたがった多様で柔軟な活動、市民や事業者や行政の協働、宅老所やあつたかほーむを中心とした「くらし支え合い」の活動などがごく自然に生まれました。

戦後になつては、この子らを世の光に“として実践を続けた「近江学園」を忘れてはなりません。

どんなに障がいも重くても、主体的に・社会的に生きる権利を主張した糸賀一雄。障がいのある人となない人が、水平に・共に生きていくべしと説いた田村一。誰もが、仕事と役割を持って、街や村で暮らし続けしと実践を続けた池田太郎。

三人は時代の状況から障がいのある人たちの施設福祉に力を注がざるを得ませんでした。いわば日本型ノーマライゼーションともいえるべきその思想は、滋賀の高齢者への支援を中心とした「街かどケア」の根底にも流れています。

## 認知症になっても、障がいがあっても、 いつまでも私らしく、住み慣れた所で、 みんなと一緒に、支え合って暮らし続ける

その滋賀の宅老所や小規模デイサービスやあつたかほーむは、現在80カ所ほどに達しています。またそれに併せて、地域サロンの活動もいっそう活発となり、その数は民家利用型も含め、現在1、646カ所となっています。

今回のフォーラムは、その「地域サロン」や「小規模多機能ケアの場」、「共生ケアの場」などの取り組みをもう一度振り返りつつ、地域での「持ちつ持たれつ・くらし支え合い」のあり方を考えていきたいと思います。

またこれまでは、取り組みが小規模か大規模か、多機能か単機能か、共生型か単独型かで語られることが多かったものを、地域全体での多機能ケアや共生ケアといった視点で議論を上げてみたいと考えています。

なお今回のフォーラムは、例年滋賀で行われている障がいのある人たちの地域支援を考える「アミニティ・ネットワーク・フォーラム」と協働し、そのプログラムの一部を共通のものとなりました。

「知的障がいのある人たちの宅老所などでの活躍」や「あつたかほーむなどの共生ケアへの取り組み」、それに「高齢者や障がいのある人、子どもへの虐待防止」などのプログラムを用意しました。「人・暮らし・地域」を共に考え、共に学び合って、明日からの活動につなげていただいたり幸いです。

# 1 オープニングプログラム ようこそ滋賀へ!

滋賀で生まれ、滋賀で育った街かどケア。滋賀の知的障がい福祉の歴史を切り開いた糸賀一雄、田村一二、池田太郎の三人の足跡をたどりながら、街かどケアの根底に流れる思い、宅老所・グループホームにとどまらない多様なユニークな地域での取り組みを、滋賀のみならずから報告してもらうとともに、今回のフォーラムのねらいを溝口・中村両氏からわかりやすく紹介します。

# 2 デイスカッション1 これからの「小規模多機能ケア」のあり方を探る

宅老所やグループホームの実践が目指してきたものは、「地域で暮らしつつける」ことを最後まで支える「こと」でしたが、いつの間にか事業所にお年寄りを抱え込んでしまい、「地域」と協働して支える視点が薄れてきている、という声を耳にするようになりました。

これまでの小規模多機能ケアの実践と議論によって、「場(事業所)で多機能」が果たしてきた役割はこれからも評価されるべきですが、それだけではなく、地域の中さまざまな社会資源のネットワークの中で実現される「地域で多機能こそ」今、求められているのではないのでしょうか。

お年寄り・障がい者など、多様な人たちの地域の居場所が存在しながら、それぞれの場が緩やかにつながり、「地域・暮らし支え合い」が実現する。それに向けての私たちの第一歩は何であるのかを議論します。

# 3 デイスカッション2 「地域で多機能ケア」を可能にする「近所応援団」

在宅生活を支えるためには、ご本人の身体機能や精神状態だけを支えるのは十分ではありません。介護家族を支えること、ご本人・家族の社会関係・地域関係を支えることも必要となります。本人と家族、そして地域・社会をつなぐ視点が必要になります。これは、ユニットやグループホームで暮らし、いても同じように必要な視点です。

「場(事業者)の多機能・共生」から「地域で多機能・共生」の必要性をディスカッションで議論しますが、では、実際の介護現場でどのように、何を支えていけばいいのでしょうか。その二つのヒントが「地域ケア会議」にあります。介護現場・介護家族・行政・

社協など多様な観点から、この地域ケア会議の可能性を検討したいと思います。

# 4 分科会1「共同企画1」 子ども・老人・障がい者 それぞれの虐待を考える

最近、新聞などのマスコミで虐待が記事にのぼらない月はありません。対象は子どもから老人、そして障がい者まで幅広くなっています。施設における虐待は以前から問題視されてきましたが、最近の事件の多くは、家庭や地域で起こっています。それらに共通するのは、介護者の「孤立感」というキーワードです。介護保険や子育て支援、障害者自立支援法と施策は充実してきていますが、地域や家庭で介護に孤立していく現状について掘り下げてみたいと思います。

# 5 分科会2「共同企画2」 仕事や役割を持って暮らす

滋賀県では訪問介護に関する3級課程を修了した、約300人の障がいのあるスタッフが介護サービス分野で働いています。その現場は毎日が賑やかです。障がいのあるスタッフを気にかけて、そのスタッフのお世話をしようと一緒に動いているお年寄りの姿や、お年寄りと一緒にお昼寝をしようというスタッフの姿。そんな姿を見て怒ったり、笑ったり・・・自然とそのような雰囲気やお年寄りの「役割」をつくってくださる。これは一つの「介護の本質」とも考えられます。

障がいのあるスタッフは意識しなくとも、お年寄りの「居場所」と「役割」を上手につくってくれます。それは、知的障がいのある人それぞれに、ならではの働きがあるからだと言えは考えています。ぜひ「もう一つの介護の本質」ならではの「働き」を大津プリンスホテルに突如出現する宅老所に見に来てくださーい!!

# 6 分科会3「共同企画3」 地域共生ケアはこうして実現する!

富山型デイサービスを皮切りに、地域共生ケアはいくつかの府県で実践されにいたりしました。ですが、介護保険法と障害者自立支援法の2つの法律の間で、事業者が悩まされることが多い状況は、今も変わっていません。

この分科会では、高齢者も障がい者も子どもも、誰もが地域で自分らしく暮らし続けるための仕組みの一つとして地域共生ケアに焦点をあて、制度の壁を乗り越え、自治体も巻き込みながら実践を切り開く方法を議論します。

# 7 分科会4 現場発! 小規模ケアのマネジメントと人材育成

私たちの仕事の目的は何なのか?「目の前のお年寄りが幸せに生きられる・・・」それを支援することが目的であることは言うまでもありません。けれど、まだ自分たちが経験していない、お年寄りの「老い」ことへの不安や焦燥を自分たちはどれだけ理解しているのでしょうか?そこに「援助の視点」が問われています!

お年寄りの言ったこと、行なったことそのものに向き合い、お年寄りの必要から出発するマネジメントがあります。そこには議論と共感に裏付けされたチームケアが必要とされます。

同時に人材育成なくしてケアマネジメントは語れません。また、ケアマネジメントを考えない人材育成はありえません。この相互の関係を事業所の中でいかにシステム化できるかが問われています。

介護の仕事が「やりがい」のあるものになるよう、実際の現場運営からそのポイントを学び、議論します。

# 8 分科会5 心象絵図の意味するもの

地域に生きる一人ひとりの体験や、一人ひとりの心息づくたぐいさんの思いを集めて描く「地域の生活」の「心象絵図」それが「心象絵図」です。絵図の中には、地域の生業・生活風俗・祭り・行事・四季の自然などが描きこまれ、老若男女の隔りもなく、みんながその場を共有でき、一目で地域の暮らしの全体像を見渡せるものです。

このセッションでは、心象絵図の意味を紐解きながら、お年寄りのエンパワメント、世代間交流、はては地域づくりなど、心象絵図の持つさまざまな可能性を探ります。

# 9 分科会6 ユニットやグループホームで 「地域に住む」ことを実現するために

「地域に住む」とはどのようなことを言うのでしょうか。「その入り口と出口が地域」はユニットケアの「言い言葉」となっています。では、その「出口」として「地域で住む」とは何のことを指しているのでしょうか。自宅に住んでいれば「地域に住む」、施設やユニット、グループホームにいるとどうではない。なんて、単純なものではないはず。大規模施設を解体して、サテライト型特養やグループホームをつくる、そこに移り住めば「地域に住む」

ことになるのだ、という話でもないはず。この分科会では、この出口として「地域に住む」という命題にこだわり、ユニットやグループホーム、果ては特養にいなから地域で住むことを実現する可能性を再発見していこうという、冒険的な課題に取り組みます。

# 10 特別分科会 映画「ふるさと」

やがてダム工事のために湖の底に沈もうとしている山間の小さな村を舞台に、自然の中に生きる村人の姿を叙情豊かに描いたドラマ。岐阜県徳山村を舞台に、認知症のお年寄り少年との交流を描いた作品です。

# 11 デイスカッション3 住民発、当事者発の活動の中に 宅老所・グループホームの原点をみる

2008年3月にまとめられた、『これからの地域福祉のあり方に関する報告書』。この報告書の中でも取り上げられているように、今、住民発、当事者発の活動が広がっています。自分たちが住む地域のことを自分たちで考え、行動する。こうした地域福祉活動が、宅老所など、地域での暮らしを支え続けてきた介護実践と結びつくことができるのでしょうか。

「地域で多機能」を考えるうえで、も欠かせない、介護保険事業者と地域活動の接点を探ります!

# 12 まとめのセッション このフォーラムを明日からの糧とするために

「終わりよければ、すべてよし」何事にも「まじめ」ほど重要なものはありません。この2日間、全体会・分科会を通して語りつづけてきたことを振り返り、お越しのみなさんの明日からの介護実践の糧を持って帰っていただきます。宅老所フォーラムとアメニティー・ネットワーク・フォーラムの「記念すべき共同開催を締めくくるにふさわしい対談です。存分にお楽しみください。

12:30～12:50 開会  
12:50～14:10 オープニングプログラム ようこそ滋賀へ!

### 糸賀・田村・池田の思想から茗荷村運動へ ～街かどケアの源流を探る～

- ビデオ・ナレーション  
デイサービスセンターらく(滋賀県) 所長 東川 晃子
- 話題提供  
大萩茗荷村(滋賀県) 代表 仲本 耕児  
ボランティア「衣川台オアシス」(滋賀県) 代表 田中正彦  
あったかほーむ ただいまあ(滋賀県) 代表 谷 仙一郎
- ナビゲーター  
街かどケア滋賀ネット 世話人代表 溝口 弘  
兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会 世話人代表 中村 大蔵

14:10～14:25 休憩

14:25～16:05 ディスカッション1

### これからの「小規模多機能ケア」のあり方を探る ～「地域での暮らし」には欠かせない「場」のつながり(ネットワーク)～

- パネリスト  
ゆいの里(栃木県) 代表 飯島 恵子  
井戸端げんき(千葉県) 代表 伊藤 英樹  
宝塚市社会福祉協議会(兵庫県) 事務局長 佐藤 寿一  
和光市保健福祉部長寿あんしん課(埼玉県) 課長補佐 東内 京一
- コーディネーター  
日本福祉大学社会福祉学部 教授 平野 隆之

16:05～16:20 休憩

16:20～18:00 ディスカッション2

### 「地域で多機能ケア」を可能にするご近所応援団 ～人と人、人と場、場と場をつなぐ「地域ケア会議」の可能性～

- パネリスト  
エフ・エー(大阪府) 理事長 福洋子  
託老所あんき(愛媛県) 代表 中矢 暁美  
地域包括ケアセンターいぶき(滋賀県) 医師 畑野 秀樹  
大津市社会福祉協議会(滋賀県) 副参事 山口 浩次
- コーディネーター  
龍谷大学社会学部 教授 筒井 のり子

19:00～21:00 懇親会(ロイヤルオークホテルSPA&ガーデンズ)

### アメニティー・ネットワーク・フォーラムとは

地域で暮らす障がいのある人とその家族に使い勝手のいい生活支援サービスを普及するために1998年から開催されているフォーラムです。単に介護負担の軽減だけでなく障がいのある人本人やその家族が地域で、より快適で豊かな生活を実現するために必要なサービスのあり方とその提供の仕組みづくりを提案していくこともたいせつにしています。全国から障がい者に関わる行政、福祉関係者、保護者を中心に、毎年1,000人を越える方がたが参加しています。

### アメニティー・ネットワーク・フォーラムとの共同企画による分科会

9:20～11:20 分科会

#### 分科会1【共同企画1】

### 子ども・老人・障がい者 それぞれの虐待を考える 行き詰まる育児・介護

- パネリスト  
滋賀子育てネット 松原 洋介  
認知症のひと家族の会 滋賀県支部 代表 服部 節子  
オープンスペースれがーと(滋賀県) 常務理事 牛谷 正人  
滋賀県健康福祉部子ども・青少年局 局長 渡邊 光春
- コーディネーター  
(調整中)

#### 分科会2【共同企画2】

### 仕事や役割を持って暮らす 知的障がいのある人たちの宅老所等での“ならでは”の働きに学ぶ

- パネリスト  
愛の音(滋賀県) 障がいスタッフ・職場同僚・お年寄り  
たすけあい佐賀(佐賀県) 副代表 吉村 香代子  
宅老所ながせ(佐賀県) スタッフ 大久保 ひろみ  
滋賀県障害者自立支援課 参事 瀬古 隆
- サポーター  
静岡県厚生部障害者支援局 局長 本後 健
- コーディネーター  
毎日新聞社 記者 宇城 昇

#### 分科会3【共同企画3】

### 地域共生ケアはこうして実現する! 制度の壁を乗り越え、誰もが、地域で、笑顔で暮らすために

- パネリスト  
このゆびとーまれ(富山県) 代表 惣万 佳代子  
あったかほーむ 老いも若きも(滋賀県) 管理者 海岸 秀  
はなのいえ(兵庫県) 理事長 内海 正子
- コーディネーター  
日本福祉大学社会福祉学部 教授 平野 隆之

#### 分科会4

### 現場発! 小規模ケアのマネジメントと人材育成 どこで、誰と、どうやって暮らしたいのか、 人や暮らしやその関係を考える

- パネリスト  
いくのさん家(鳥取県) 管理者 竹本 匡吾  
宅老所いろ葉(鹿児島県) 管理者 塚原 ひろみ
- ファシリテーター  
蒲生の家(大阪府) 代表 瀬川 雅和

#### 分科会6

### ユニットやグループホームで 「地域に住む」ことを実現するために 地域で共生・多機能の視点から考える高齢者地域居住の必要要素とは何か

- パネリスト  
GH・いこいおりおの館(大阪府) 管理者 吉田 洋司  
老健・きのこ老人保健施設(岡山県) 副施設長 武田 和典  
老健・愛生苑(広島県) 支援相談部長 宮本 彰敏
- コーディネーター  
大阪市立大学大学院 准教授 三浦 研

11:20～12:10 昼食休憩

12:10～13:40

#### ディスカッション3

### 住民発、当事者発の活動の中に 宅老所・グループホームの原点をみる

- パネリスト  
すずの会(神奈川県) 代表 鈴木 恵子  
大津市雄琴学区社会福祉協議会(滋賀県) 会長 小倉 勝世  
つどい場さくらちゃん(兵庫県) 代表 丸尾 多重子
- コーディネーター  
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授 藤井 博志

13:40～15:20

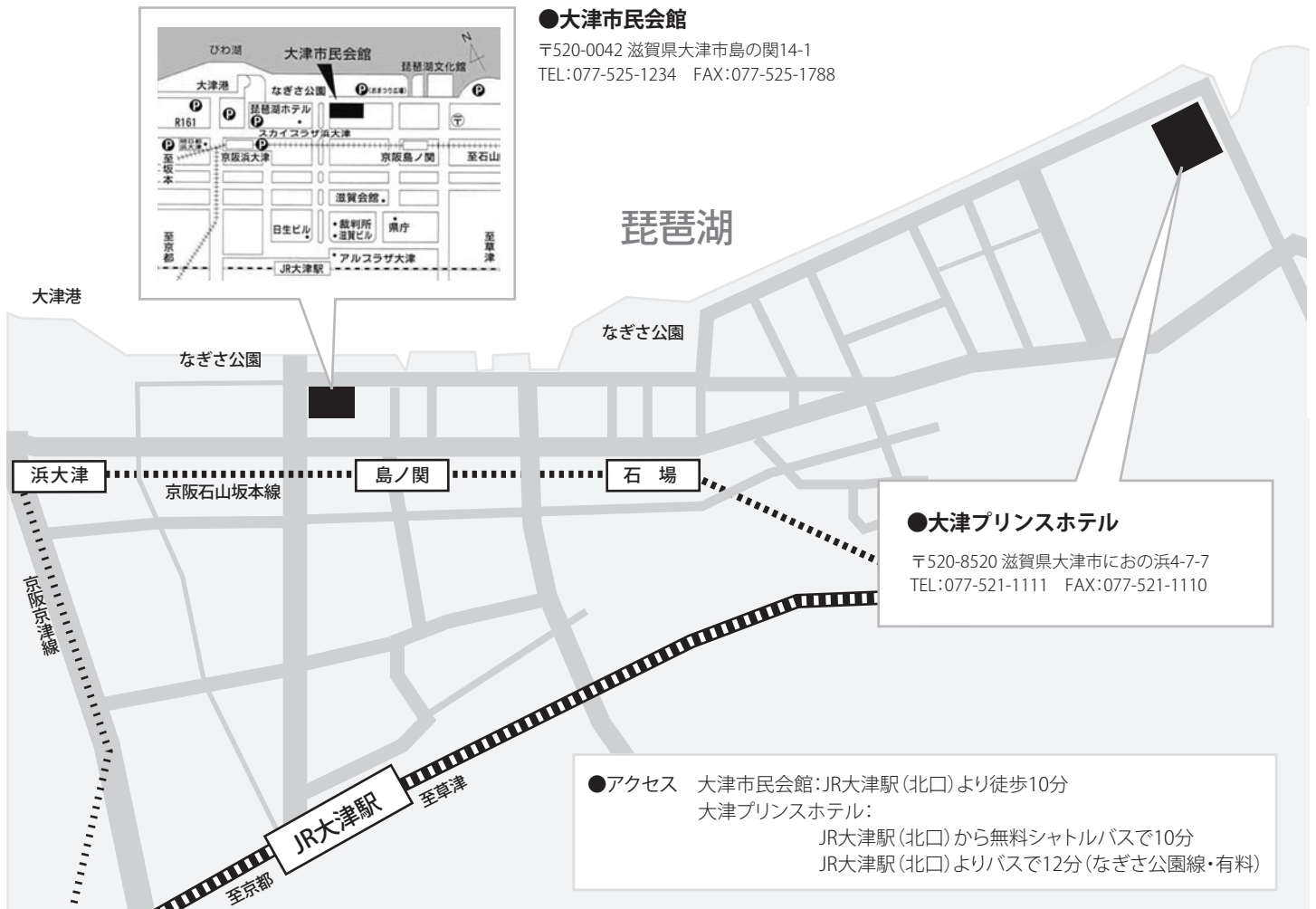
#### まとめのセッション

### このフォーラムを 明日からの糧とするために

- パネリスト  
街かどケア滋賀ネット 世話人副代表 小椋 猛  
全国地域生活支援ネットワーク 理事 曾根 直樹  
東京大学 名誉教授 大森 彌
- コーディネーター  
福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット 志の縁結び係  
国際医療福祉大学大学院 教授 大熊 由紀子

15:20～15:30 閉会

## 会場案内・地図



## 第12回地域サロン・宅老所・グループホーム全国研究交流フォーラムinしが

- 日 時** 2009年2月21日(土) 大津市民会館 (〒520-0042 滋賀県大津市島の関14-1)  
2009年2月22日(日) 大津プリンスホテル (〒520-8520 滋賀県大津市におの浜4-7-7)
- 主 催** 「第12回地域サロン・宅老所・グループホーム全国研究交流フォーラムinしが」実行委員会  
宅老所・グループホーム全国ネットワーク  
街かどケア滋賀ネット
- 共 催** 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会  
地域サテライトケア推進プロジェクト  
小規模多機能ホーム研究会
- 共同開催** アメニティー・ネットワーク・フォーラム
- 定 員** 600人
- 参加費** 12,000円
- 参考資料代** 3,000円 ※宅老所・グループホーム全国ネットワーク会員は1,000円/1会員1人のみ
- 懇親会** ロイヤルオークホテルスパ&ガーデンズ/8,000円

### 参加申込先・申込みに関するお問い合わせ先

(株)日本旅行仙台団体旅行支店  
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-1-7三和ビル3階 担当:林・吾妻・柳川・佐藤  
TEL:022-261-4511 FAX:022-222-7570 E-mail:sendai\_danryo@nta.co.jp  
\*受付時間・平日/9:00~18:00 土・日・祝日・年末年始(12/30-1/4)/休み

### 内容に関するお問い合わせ先

「第12回地域サロン・宅老所・グループホーム全国研究交流フォーラムinしが」実行委員会事務局  
〒981-0954仙台市青葉区川平5-3-18-207(CLC内) 担当:湯橋・國分  
TEL:022-719-9248 FAX:022-719-9251